

# 学級会における望ましい教師のかかわり

## チーム型のスポーツの審判になるとよい

学級会では、教師の助言によって話合いの流れが大きく変わってしまうことがあります。「すぐに口を出す」と「見守りに徹する」のどちらも教師のかかわりとしては望ましくありません。サッカーなどの**チーム型のスポーツの審判**に例えると、その理由がよくわかります。

ちょっとしたラフプレーに笛を吹いてしまうと、その後何度も笛を吹かなければ試合をコントロールできなくなり、つながりのない途切れ途切れのプレーになります。一方で、ラフプレーに対して極端に寛容になって笛を吹かないと大荒れの試合になり、ゲームとしての面白さが損なわれます。

計画委員会でしっかり指導しておきます



**できるだけゲームの流れを止めないようにしつつ**、これは「絶対にアウト」ということには躊躇なく笛を吹くことが大切です。学級会での教師の役割は、そんな審判の役割に似ています。基本は、「待つ、見守る、信じる、期待する」です。



原則は話合いが始まったら助言に徹します

## 「指導」ではなく「助言」ができるか…

一般的に「出なければよかった」という助言は、話合いの方向や結論を強引に導くような指導で、「出るべきだった」という助言は、**深い思考を促すような助言**です。学級会も授業であり、教師が出るべきタイミングは必ずあります。

## 話し合って合意形成する

学級会で「待ったなし」で出なければならぬ教師の役割は、「助言」ではなく、話合いのマナーやルールを守らなかつたり人権に関わる発言があったりしたときの「**指導**」です。大事なものは、いかにして深い話合いにするための「**助言**」ができるかです。

「話合いの混乱が続いたとき」「明らかに共通理解できていないまま『まとめる(決める)』に入ろうとしたとき」「深い議論もせず、安易に決まってしまうとき」などに、教師は出るべきです。しかし、「まだ、〇〇が解決していませんね。」「〇〇さんが言った意味がわかりましたか。」など、**問題の事実だけを伝え、その対応や答えまで言わないように**します。

あくまでも解決策は、子どもたち自身が気付くようにします。

## 終末での教師の話は？

終末の教師の話は、学級会に対する**指導と評価を行う場**で、次の4つの内容を伝えます。

- ①前回の学級会と比べてよかったこと
- ②次回の学級会に向けての課題
- ③司会グループへのねぎらい
- ④実践に向けての期待感

あくまでも**授業**なので指導と評価の場です



実践への意欲を高めるようにすることが大切です。

## 学級活動(1)提案理由について

合意形成を図るためのよりどころとして、提案理由を明確に、かつ簡潔に示す必要があります。特に、「何のための活動なのか」を提案理由の中で明確にすることで、個々の好みが多く出たり、意見が分かれてしまったりした時に、話し合いを整理する大切な根拠となり、合意形成に向かうことができます。

以下の3点を提案理由に組み込み、この話し合いによって、どのようなことが実践できるのかまでイメージをもって話し合えるようにします。また、考えられる解決の方法をキーワード化して、よりどころを可視化する方法もあります。

### 【提案理由に入れる内容として】

- ① 現状の問題点（今、こうなっている）
- ② 考えられる解決の方法（こうすることで）
- ③ この活動に取り組む意義（この学級にとってよいことがある）

#### 【低学年の議題例】

### 雨の日の遊び方を決めよう

雨の日になると、① 外で遊べなくなって、教室の中が密になっています。そこで、雨になったら全員で遊ぶ日を決めたいと考えました。② あまり人と近づかなくても、全員で遊べて、みんなが楽しめる遊びをすることで、③ 雨の日でもみんながもっと楽しくすごせるのではないかと考えて、ていあんしました。

キーワード

全員が遊べる

人と近づかない

#### 【中学年の議題例】

### ○学期思い出集会を開こう

○学期の間に、みんなでいっしょに学習したり、遊んだりして、① 1組の思い出がたくさんできました。そこで、これまで1組みんなが② がんばったことや楽しかったことをふりかえって楽しめる会をすることで、また新しい思い出ができて、③ もっと仲よくなれると考えて、ていあんしました。

キーワード

全員が楽しめる

がんばったことや楽しかったことを振り返ることができる

#### 【高学年の議題例】

### 卒業アルバムの内容を決めよう

卒業アルバムの中に、クラスみんなで作るページがあります。① 2年間でいろいろな思い出ができたので、② 5組の思い出や出来事がわかり、あとから読んでも全員が楽しめるようなページにすると、③ 素敵な思い出がまた1つ増え、卒業アルバムを開くのが楽しみになると思い、どのようなページにするかをみんなで決めたいと考え、提案しました。

キーワード

後から読んでも楽しめる

5組の思い出や出来事がわかる

## 「くらべ合う」段階の指導のポイント

話し合い活動を行う際に議題や課題について、周りの仲間と協力してより良い解決方法などを合意形成することが重要視されています。そのために、「単純に賛成数が多いから決定！」ではなく「みんなにとってより良いものを、知恵を出し合って考えていく」姿を、話し合いの中で求めていくことが必要です。各発達段階でどのような指導でどのような力を身に付けていくとよいのでしょうか。

新学習指導要領にも、「他者と協働」して「多様な意見を生かす」と明記されています！

### 低学年

くらべ合う段階では、経験を根拠として話し合い、自分の考えと友達の考えの違いを理解する経験を積む

「前に、〇〇だったから・・・」「みんなで作ったとき・・・」

### 中学年

くらべ合う段階では、どのような観点でくらべ合うかを理解し、意見の根拠の共通点と相違点に着目して、みんなにとってより良いものを探っていく

「〇〇と□□は、どちらも★★が賛成の根拠になっている。」  
「一番★★なのは・・・」

### 高学年

くらべ合う段階では、意見の量ではなく、意見の質に多面的、多角的に着目する中で、自分たちが求めていくべき大切な価値を見つけ出す

「今のこのクラスにとって、大切なことは・・・」  
「〇〇をするとこんなよさがあるね。」

低学年では

根拠を話すときに、「どうしてそう思ったの？」「何をした時にそう思ったの？」等、子どもたちから具体的に経験を引き出せる問い返しをしましょう。

中学年では

意見の根拠が提案理由に合っているか表を用いて表すことで、子どもたちが話す根拠が構造的に捉えられるようにしましょう。根拠が提案理由とどのように繋がっているかを意識して話すように伝えましょう。

高学年では

自分たちの課題に対して、決めたことを実践することでどのようなよさがあるかを整理することで、何を実践したらどのような成長があるかを捉えられるようにしましょう。

このように、高学年で他者と協働しながら多様な意見を生かす話し合いが展開できるよう、見通しをもってそれぞれの発達段階で話し合いの指導をしていくとよい。

そのための指導は・・・



# まとめる(決める)段階で配慮すること

みんなで話し合ったことをいよいよ「まとめる」ときや「まとめた」あとに気を付けておくことに、どんなことがあるでしょう。



## 『少数意見』への配慮

比べ合う中で、自分の意見に決まらなかった子や全体のことを考え譲ったりした子もいるかもしれません。その意見の中にあるよさや譲った態度をほめて、広げてあげましょう。

決まらなかったけれど、〇〇さんの  
～なアイデアは、おもしろかっ  
たです。何かのときに、使えるもし  
れませんか。

〇〇さんたちは、今回は譲ってく  
れました。みんなで決めるときに  
は、それも大事なことです。

## 『多数決を行う』とき

安易に多数決で決めてしまっでは、「くらべ合う」こ  
この意味がありません。多数決で決めてよいのは、子ど  
もたちみんなが十分に意見を出し終えて、「決まったこ  
とに文句を言わないで、きちんと協力する!」というこ  
とが前提となります。



決まったことは、みんなでするのが約束で  
す。ちゃんとできるって、立派ですね。

## 『すぐにまとまった』とき

子どもたちの考えがさっと同じ方向に  
まとまることもあるかもしれません。提  
案理由に合っているか確認し、スムー  
ズな話し合いをほめてあげます。た  
だし、その「議題」の必要性や時期  
が適切だったのかを考えてみるとよ  
いでしょう。

## 『まとまらない』とき

建設的な意見が多いのにまとまら  
ないときは先生の助言が必要です。  
相違点を明らかにする、視点を  
変えるヒントを出すなどして、  
司会を助けます。司会に耳打ち  
ではなく、全体に話すと進め方  
がみんなに分かるでしょう。